≪投　稿　欄≫

日本天文学会運営の検討について——日本天文学会の会員の増加とその活動が多岐にわたるようになるにつれ，当然のことながら，従来の学会運営のありかたは検討を迫られることになりました．そのため，運営検討委員会が置かれて議論が重ねられ，その答申を通じてさまざまな問題点が浮き彫りにされてきたように思います．

何といっても，日本天文学会が関連自然科学部門の他の学会と異なる点は，数多くのアマチュアが会員として参加していることです．学会発足当初は，アマチュアと少数の専業研究者の密接な協力によって学会が支えられていたと聞いています．このような協力関係は，アマチュアと専業研究者の両者ともが急激に増加してしまった今日でも，望ましいことであるには違いありません．個人のレベルでは，今もって変らぬ協力関係が続いていると，私は思っています．

しかしながら，学会という組織として眺めてみますと，専業研究の多分野化・専門化・複雑化に伴って，上記のような協力関係の場としての余裕は，次第に少なくなりつつあると思います．実際は，他の機能が増強されてきたというほうが正しいのでしょう．全国の専業研究者の情報の相互交換の場や対外的な代表機関としての機能が要求されてきたのです．このような面での学会の機能の急激な増大にもかかわらず，運営面は当初の型を規模だけ大きくして間に合わせてきた所に，無理がでてきたのだと思います．アマチュアの間でも，相互連絡の場や代表機関への要望が高まってきたことは事実ですが，アマチュアと専業研究者という立場の違いから，まず専業研究者の求める機能を果すように，学会が変質してきたわけです．この変質もまだ充分ではなく，専業研究者だけの要望にも，まだまだ答えきれていないのが現状でしょう．この間，アマチュアは多くの不満を抱えながらも，全国アマチュア研究発表会を三回も重ね，また，日本の天文アマチュア活動の歴史の編纂を始めるなど，当面する問題と主体的に取り組んできています．

現在，専業研究者の求める機能を学会が有効に果たすためには，運営の民主化がどうしても必要です．ここで私が民主化といいますのは，原始平等化をさすのではなく，構成員各自が責任を自覚して積極的に運営に参加していけるような方向への変化ということです．

学会に主として求める機能が，アマチュアと専業研究者とで違ってきている現在，両者をひっくるめて単一母体とする民主化は無意味だというのが私の意見です．求める機能の分化と，専業研究者に関する部分での民主化への要望の高まりとの間には，必然的関連があったのです．

将来，アマチュアと専業研究者とがもっと緩やかに結ばれた協同組織として，新しい道を進むことになるだろうということは，運営検討委員会に参加された諸氏をはじめ，多くの方々が予想されているところです．しかし，ただちにそうならないからといって，必要な民主化を遅らせるべきではありません．第一段階として，専業研究者を母体とする民主化（たとえば特別会員による評議員の公選とそれに見合った実務の分散）を行なうことが何よりも大切だと思います．それと併行して，アマチュアの求める機能を果たす部分を，学会の内外に育てていくべきです．

最近の学会改革論議が，民主化を急ぐあまり，さまざまな要素を混同してしまい，形式的末梢的になってしまっているような気がしますので，あえて筆をとりました．（昭和45年11月30日）

（東京天文台　小平桂一）

総合科学研究費について——私は来年度（46年）の天文関係総合科学研究費に関する研究班編成について連絡係をつとめてきましたが，一応のまとまりがつきましたので，ご協力下さった諸氏に感謝するとともに感想を記します．近年は研究会が多く開かれ，さまざまな研究機関のさまざまな分野の方々の交流が盛んになり，数年前に比べると，このような班編成はずいぶん楽になったのだと思います．しかしながら，各個人と直接に連絡をとって課題をまとめていくことは実際上不可能で，できるだけ多くの方のご意見を参考に試案を作り，協力して下さった方々を通してメンバーの意向をただして改良していく方法をとりました．このようなことを三回ほど繰り返して最終案にいたったのですが，不備な点も残ったことと思います．私の不手際もありましょうが，毎年繰返されていることながら，研究者の方々の積極的な関心と責任ある協力の少ないのも事実です．近いうちに，学会の時期でも利用して，討論の機会をもちたいと考えていますので，あらかじめご意見を募りたいと思います．恐れいりますが，どのようなものでも多少にかかわらず書面にして私宛にお送りください．

（東京天文台　小平桂一）